



D 4

問題1 「先生のはなしをちっともきかずにおしゃべりしているこねずみが三びきいますよ。」は、だれが言っているのですか。

- ① 先生のはなしをきいているこねずみ
- ② 先生
- ③ **宮西達也**
- ④ ねこ

### 指導ポイント

会話文と地の文の違いと、地の文の視点が誰なのかを意識させるようにしましょう。

D 5

問題2 「こねずみたちがあるきでした、そのときです。」の「そのとき」とは、いつのことですか。

- ① 先生のはなしをしているとき。
- ② 三びきのこねずみがおしゃべりしているとき。
- ③ 「あれれ、だれもいないよ。」と気がついたとき。
- ④ **こねずみたちがあるきでしたとき。**

### 指導ポイント

指示語が何を指しているかは、常に確認させておく必要があります。

D 6

問題3 にやーごは なぜ大きな文字になっているのですか。

- ① ページのはじめだから。
- ② ねこのなき声だから。
- ③ **ねこのなき声が大きいということをあらわしたかったから**
- ④ こねずみがびっくりしたことをあらわしたかったから

### 指導ポイント

文字の大小や太字、そして、斜字体などが何を表現しているのかを読み取らなければなりません。

D7

問題4 こねずみが「おじさん、だあれ？」と言ったとき、なぜねこはどきつとしたのですか。

- ① こねずみがびっくりしたから。
- ② **こねずみがこわがらなかつたから。**
- ③ こねずみがおいしそうだったから。
- ④ おやねずみがいなかったから。

#### 指導ポイント

「どきつ」とは、驚いて一瞬心臓が強く打つように感じるときに使う言葉です。

「驚き」は、予想していないできごとが起こったときの気持ちです。

ねこは、こねずみがこわがって「おじけづく」と予想しました。しかし、その予想に反して、こねずみは「ひるむ」ことなく堂々としていました。

だから、ねこは驚いて「どきつ」としたのです。

D8

問題5 ねこはいってしまってから、なぜ、すこしかおを赤くしたのですか。

- ① おこったから。
- ② **はずかしかったから。**
- ③ あわてたから。
- ④ きまりがわるかったから。

#### 指導ポイント

「顔が赤くなる」のは「おこったとき」や「はずかしいとき」です。

ねこは「だ、だ、だれって……た、たまだ」と、心が動揺し「とまどって」います。決して、「おこっている」状態ではありません。

「はずかしい」は立派な相手と比べて、自分が劣っていると判断したときの気持ちです。ここでは、堂々としたこねずみと動揺しとまどっている自分を比べて、自分の方が劣っていると判断したので「はずかしく」なったのです。

その「はずかしい」気持ちが顔にあらわれ「赤く」なったのです。

D12

問題6 こねずみが「やーご」ときけんだのはなぜですか。

- ① ねこに ほめられたかったから
- ② ねこに おれいが いたかったから。
- ③ ねこに こんにちはと いたかったから。
- ④ **ねこに さよならと いたかったから。**

#### 指導ポイント

「そしていまのやーごが、さよならなんでしょ」と言っているということは、こねずみは、さよならのつもりで「やーご」と言ったということになります。

問題7 「お、おれのうちにはこどもがいる……」と、ねこはなぜ小さな声でこたえたのですか。

- ① **とまどっていたから。**
- ② かんしんしていたから。
- ③ ひょうしめけしていたから。
- ④ びっくりしていたから。

### 指導ポイント

- ① 「お、おれの」と一瞬返答に詰まっています。そして、最後まで「……」と黙ってしまっています。この表現は、これからどのように言えばよいか迷っているときの気持ちを表しているといえます。つまり、ねこはとまどっているのです。
  - ② 「感心する」は、予想以上に良いことが起こったときの気持ちです。ねこは、こねずみは「こわがる」と予想していました。が、「平気な態度」を取りました。この「平気な態度」をねこは良い事と評価はできませんので、感心することもありません。
  - ③ 「ひょうしめける」は、予想よりたいたことがないときの気持ちです。
  - ④ 「びっくりしている」は、思いがけないことが起こったときの気持ちです。
- こねずみが、ねこをこわがらないことは、おもいがけないことなので「びっくり」しています。

しかし、「たまおじさんは、おとうととかいもうといるの？」とたずねられたときには、答えないでさらに脅かすか、答えるとしてもどのように答えるとよいのかと、驚きから戸惑いに気持ちが変わっています。

問題8 ねこはももをだいいじそうにかかえたまま、にやーごと小さな声でこたえたのはなぜですか。

- ① **うれしかったから**
- ② こまっていたから
- ③ さびしかったから
- ④ ほっとしたから

### 指導ポイント

- ① 「うれしい」は、良いできごとが起こった時の気持ちです。
- ねこは、こねずみを食べるつもりでいたのですが、こねずみはねこの思惑もしらずやさしく対応します。そこで、ねこはたべることをちゅうちょし、どまどい、そして、食べることはしませんでした。
- こねずみのやさしさは「無償でももをあげること」に象徴されています。そのやさしさの象徴である「もも」を、ねこはだいいじそうにかかえているのです。そこに「うれしさ」をよみとることができません。

ただ、さらに読み込むとすれば、今回は、こねずみのやさしさに負けて食べなかっただけです。

だからと言って、ねこがねずみを食べない生活を続けることも不可能なことです。つまり、今度あったら食べなければならぬかもしれないからです。ですから、聞こえないような小さな声でこたえなければならなかったのです。

もう一つの読み方としては、ねこはこねずみの優しさに深く感動しているので、その深さを表現するために「小さな声」にしたということもできます。

②「こまる」は、問題解決手段がない時の気持ちです。  
この時点では、こねずみをいかにしてたべるかという問題そのものがなくなっています。ということは「こまる」ことも無くなっているといえます。

③「さびしい」は、頼れるものがないときの気持ちです。一人ぼっちになる孤独感です。三匹のこねずみとの間に友情が生まれ、別れがづらいというのであれば「さびしい」という気持ちにもなります。

しかし、ここでは、こねずみの一方的やさしさです。ねこにとっては食べる対象でしかなかったのですから、別れによる「さびしさ」を感じることはないはずで

④「ほっとする」は、予想した悪い結果にならなかったときの気持ちです。

ねこにとって「こねずみを食べる」という良い結果にならなかったのですから、本来なら残念という気持ちになるところです。



# 野原のシーソー

竹下文字

読解 田中保成

Ver. 1

p16

問題1 ある日、いのししのとうさんが、山からたくさんのお木をよこでよきました。とよつてよるのよだれよすか。

- ① いのししのとうさん
- ② 竹下文字さん
- ③ ぴいすけ
- ④ ぶうすけ

## 指導ポイント

会話文と地の文の違いと視点を意識させましよう。

p17

問題2 ( ) の中に入るよばは、どれよしよう。

とうさんは、大工しごとも ( ① ) よす。 ( ② ) のこぎりよきよつて、 ( ③ ) 、くぎようつて、 ( ④ ) 倉庫よつくりよました。

ア しゆこしゆこ      イ りつばな      ウ とんとん      エ じようず

① ||  
エ

② ||  
ア

③ ||  
ウ

④ ||  
イ

p19

問題3 のねずみの子どもたちは、なぜ ずつとよみていたのよすか。

- ① シーソーが、あがつたり、さがつたりするわけがしりたかつたから。
- ② シーソーになりたかつたから。
- ③ シーソーをよしているのよ見るのよすきたつたから。
- ④ シーソーにのりたかつたから。

## 指導ポイント

「うらやましい」は、相手の立場になりたいう気持ちよす。

「シーソーがうらやましくて、」は、シーソーの立場になりたいうことよではなく、シーソーをよしている立場、すなわち、シーソーをよしているぴいすけとぶうすけがうらやましいのよす。

その「うらやましい」気持ちになったのよ、「シーソーにのりたいう」という欲望があつたからなのよす。

問題 4 のねずみといっしょに、シーソーにのらなかったのはだれですか。

- ① あり
- ② シャクトリむし
- ③ **ねこ**
- ④ とかげ

### 指導ポイント

単語力の問題です。意味をよく知っている単語はすぐ連想しそれをキープすることができませんが、意味のわからない単語はすぐ消えてしまいます。

ここでも、「のねずみ」から「ねこ」はすぐ連想されるので、それがキープされる場合もあるようです。逆に「シャクトリむし」を見たことがない子は、その単語はすぐ消えますので、このような設問を読んだときに、この物語には登場していないと言っている子さえいるのです。

分からない単語はすぐ百科事典なので一緒に調べ教えなければなりません。単語力の少ない段階では、単語の意味を推測させる読み方は逆効果になります。文章から離れて連想する癖がつく可能性があるからです。

問題 5 春の野原で、小さなおきやくさんをおおぜいのせたシーソーが、のんびりのんびりうごいています。なぜ、シーソーはのんびりのんびりうごいているのですか。

- ① 春だから。
- ② おきやくさんをおおぜいのせていたから。
- ③ **おきやくさんがかるかったから。**
- ④ のんびりうごかしたかったから。

### 指導ポイント

「のんびり」はこころや体がゆったりする意味なので、シーソーを擬人化した表現といえます。

そして、その「のんびり」をシーソーの動きに当てはめると、「ゆっくり」という様子を表していると推理されます。

そこで、「なぜ、シーソーはのんびりうごいているのですか。」という設問を「なぜ、シーソーはゆっくりうごいているのですか。」と読み解いてから考えることになるのです。

これからは、事実に関する知識ではなく、論理に関する知識を呼び出してこなすはなりません。ですから、幅広い読解力を身につけるにはあらゆるジャンルの読書と理科や社会、そして、算数の知識も豊富にしなければならないのです。



# 花いっぱいになあれ

松谷みよ子

読解 田中保成

Ver. 1

D 2 3

問題 1 ものがたりは、どのばしょからはじまりますか。

- ① 山
- ② 村
- ③ **学校**
- ④ 町

## 指導ポイント

物語には背景の記述が必ずあります。その背景を読み解くことによって、季節、時間帯、天気、場所、地形などがわかります。ときには、背景を使って主人公の気持ちさえ読み解くことができる場合もあります。

ですから、会話文だけでなく、地の文も注意深く分析する必要があります。その基本が時と場所です。

この物語は、時は「ある日」、場所は「学校」の場面で始まっています。

D 2 4

問題 2 学校の子どもたちは、ふうせんにお花のたねをつけて、どこにとばそうとしていましたか。

- ① 山
- ② 村
- ③ 学校
- ④ **町**

## 指導ポイント

行動には目的があります。物語においても行動の目的は常に読み解いておかなければなりません。

「花いっぱいになあれ、わーい。」が目的を表現しています。つまり、はなが少ないところを、花でいっぱいになりたいということが目的だということです。

では、花が少ないところはどこかということになります。

それは、「あちらの家やこちらの家でひろわれるまで、ふわふわとんでいきました。」ということ、家が密集していて花が少ないところ、すなわち、町ということが読み取れます。

D 2 4

問題 3 さすがにくたびれて、ふわふわふわゆれながら、お山の中へおりました。「さすがにくたびれた」は、なにをあらわしていますか。

- ① ふうせんが しぼんだこと。
- ② **ふうせんが とおくまでとんだこと。**
- ③ ふうせんが 花をもっていたこと。